



米アラバマ大学留学体験記

茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科メディア文化コース
古賀ゼミ4年 高根沙紀

2015年8月から2016年5月までの約9か月間、米アラバマ大学バーミングハム校に留学しました。強く感じたことは、自分から挑戦しなければなにも変わらないこと。そして前向きに挑戦していれば、何かにつまずいたとき、必ず誰かが手を差し伸べてくれることです。



留学と聞くと語学の上達だけにスポットが当てられがちです。しかしそれだけではなく、海外に行くと得られる特別なものはたくさんあります。

最初からトラブル続きでした。日本からヒューストンへ行き、そこからアラバマへ向かう予定でした。ヒューストンからアラバマに向かう際、搭乗口のゲート番号の変更気づかず、飛行機を乗り過ごしてしまいました。間違いに気付いたときには目が点になり、頭が真っ白になりました。

様子を見ていたのか、空港の職員が「大丈夫？」と助けてくれました。夕方5時に到着するはずが、現地に着いたのは深夜0時。職員のおじさんが親切に対応してくれなかったら空港で一泊していたことでしょう。



スタートは散々でしたが、授業が始まってしまえばそんなことを考えている余裕がないくらい忙しい日々が続きました。講義の開始が8時からだったため、朝が弱い私にとっては拷問のような毎日でした。おまけにお昼休みがないで、朝食も昼食も食べられない日が多かったです。

日本と違い、米国では課題もテストも山盛りです。春学期に社会学の授業をとっていましたが、初回のテストで最悪の結果を出してしまいました。残り3回のテストのどれも85点以上を叩き出さなければならず、まして課題に至っては、満点以外は許されないとい



た、まさに背水の陣でした。

言い訳をするわけではありませんが、初回のテストはきちんと勉強して挑んだつもりでした。結果が出せなければ意味はないのです。それを痛感しました。チューターや、同じ講義を受けていた仲



間同士で助け合い、最終的に無事単位は取得できましたが、なかなかスリリングな経験でした。

現地の学生と同じ完全に同じ環境で勉強するのは不安でした。途中からは楽しくなり、大きなモチベーションになりました。



クライミング中に落下したり、クレジットカードがスキミングされたりと色々ありましたが、今となってはいい思い出です。

アドバイスとしては、クレジットカードは3枚以上持っていきましょう、ということですかね。

最後になりますが、留学を通じて人と人とのつながりを強く感じました。英語に対する考え方が変わりました。英語は意思伝達をする上でのツールだと気づき、上手い下手、よりも「相手に何を伝えたいのか」が大切なのだと分かりました。

英語を学ぶことはもちろんですが、「英語で学ぶ」ことが米国留学の醍醐味です。生活は毎日が新しいことへの挑戦でした。辛いことももちろんありましたが、それらが私を強くしてくれました。多くの特別な経験を糧にして、これからも怯まずに新しいことに挑戦し続けたいと思います。 (終)

